

「ひいばあちゃんへ」

第2回 KYOTO KAKIMOTO 恋文大賞

手紙(文章)部門 <高校生の部>

天国にいるひいばあちゃんに、今から手紙を書きます。

ひいじいちゃんと、元気にしていますか？

見とつてくれよるかもしれんけど、じいちゃん、ばあちゃん、お父さん、お母さん。

みんな何とか元気です。

あの頃まだ小さかった弟の拓朗も、もう十四歳になったよ。

仏壇の前に行く度、低くなった声で「ばあちゃん」って呼びよると聞こえとるかな？

私も、もう十八になるよ。ひいばあちゃんが旅立って、六年たったとよ。早かねー。

最近、お母さんと二人でひいばあちゃんの思い出話ばするよ。

お母さん、相当おばあちゃん子やったとねー。

今、ひいばあちゃんが生きとつたら、もつとたくさん思い出話、聞きたかったな。

思い返せば、あの頃私は小さかったけど、ひいばあちゃんとの思い出は今でもはっきり残つとるよ。

車の中で、正座したひいばあちゃんが、戦争の話をしてくれたこと、

病院へお見舞いに行くとき帰る度に杖をついて駐車場まで送ってくれたこと。

お正月の日、病室で「これが最後のお年玉かもしれない」って、笑いながらお年玉をくれたこと、

亡くなる数日前、目の前をうろちよろ走り回る拓朗を一生懸命目で追っていたこと、

そしてひいばあちゃんが旅立ったその日、冷たくなった手を握って泣いた時のこと……。

他にもたくさん、たくさん覚えとるよ。

「人が亡くなる」といふことがどういふことなのか、それを初めて教えてくれたのが、

ひいばあちゃんやったね。本当にありがとう。

来週、ひいばあちゃんの七回忌です。

家族みんな集まって、お経ばあげてもらおうけん。

その時は、ひいばあちゃんの写真に向かつて「ばあちゃん」って呼んでみるね。

聞こえたら、「はーい」って言うてね。

幽霊は怖かけど、ひいばあちゃんやったら全然怖くなかけん。

これから先、色々なことがあると思うけど、空の上から見とつてね。

じゃあ、来週来るけん。待つとつてねー！